

「実践力」を備えた「就業力」のある人材を育成し、地域の持続・発展に貢献する大学

学校法人富士大学
富士大学

富士大学のある岩手県花巻市は、県のほぼ中央に位置し、宮沢賢治の出身地としても知られています。

昭和40年に「奥州大学」として開学し、昭和51年に現在の「富士大学」に改称されました。

経済学部及び経済・経営システム研究科の1学部1研究科からなり、①地域の人々への高等教育機会の提供、②地域社会の発展を担う経済・経営人材の育成、そして③生涯学習の機会を地域に提供し、また研究成果を地域に還元し、地域行政等への助言・協力などを通じて地域社会に貢献することを大学の使命として教育を行っています。



富士大学のキャンパス

富士大学では、そのための取組みとして「キャリア教育」と「地域貢献」に力を入れています。

【キャリア教育について】

●導入の経緯

平成23年4月からキャリア教育が義務化されるのを契機に、金融機関での人材育成や岩手県初の民間人校長を経験した馬上教授を招聘して策定されたのが、実践的キャリア教育「イーハトーブ・キャリアプラン」です。

これは、「実践力」を備えた「就業力」のある人材を育成するための独自のキャリアプランであり、その教育目的は、学生が卒業後、社会を逞しく生き抜くための次の3つの力、「がんばり力」を養成することにあります。

- ① 社会を正しく生き抜く力
- ② 学んだ知識を活用する力
- ③ 社会の一員として共生する力

このプログラムは、宮沢賢治にちなんで名づけられた、次の4つの科目群から構成されています。

- 「雨ニモマケズ科目群」
- （キャリア教育基本科目）キャリア形成論Ⅰ～Ⅳ、インターンシップ等
- 「風ニモマケズ科目群」
- （職業倫理科目）教養ゼミ、企業法務

論 起業家育成論等

「雪ニモマケズ科目群」

（職業能力科目）情報リテラシー、メンタルマネージメント論等

「夏ノ暑サニモ負ケヌ科目群」

（職業技能科目）日本語の世界、女子学生のためのキャリア形成論等

これら4つの科目群の中から、共通科目や進路別に対応した科目を履修し、1年生から4年生まで一貫した体系的なキャリア教育を行うことが、この就職支援プログラムの特徴です。

また、学内体制を強化するため、就職部を改組し、キャリア教育部門と就職支援部門を統合した「キャリアセンタール」を設立しました。



イーハトーブ・キャリアプラン

●キャリア形成論

基本科目であるキャリア形成論は、学年進行に応じてⅠからⅣまでである、全員履修の科目です。この授業では教室をオフィスに見立て、座席指定、遅刻厳禁、始めと終わりの礼を徹底すること等により、社会に出た後のリアリティショック解消に寄与しています。

2年生が履修する「キャリア形成論Ⅱ」では、全員がインターンシップを体験します。

事前指導として、「ビジネスマナー講座」や「産業人講話」を受講したうえで、花巻市を中心とした近隣の事業所に向いて、原則5日間実施します。

期間中は、実習日誌を作成し、終了後は、まとめとして発表会を行い、体験を共有化しています。

受入れ先企業の業種や職種については、学生の意見を基に40～50か所の事業所が選定され、キャリアセンター職員が交渉を行って、実施要項を作成し、終了後は意見交換を行っています。

インターンシップは学生にとって貴重な経験となるほか、地域の企業に大学を知ってもらう絶好の機会にもなっています。

●キャリア教育の成果

取組みによる成果としては、雑誌のランキングで「実就職率」（卒業生数から大学院進学者を除いた人数に占める就職者数の割合）が、全国でも上位に

ランクインし、学生募集の際には、セ
ールスポイントとなっています。

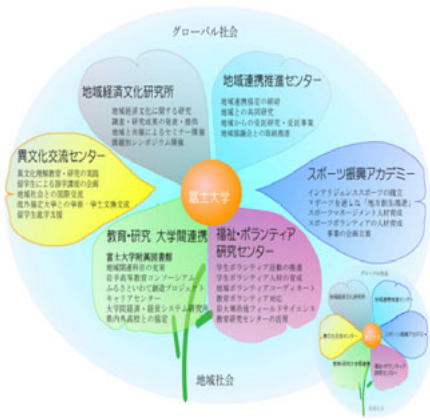
また、学生の就職先企業に対しては、
大学からアンケートを実施しており、
その結果、大学で身につけた「社会を
正しく生き抜く力」が特に高い評価を
受けています。

【地域貢献について】

地域貢献は大学設立以来、重要な使
命として位置付けられてきましたが、
平成27年に、現在の岡田学長が就任し
た際に、改めて考え方を整理し、対外
的にも「地域貢献大学」として明確に
打ち出すため、体制を整備しました。

その体制を6枚の花びらをモチーフ
として提示したものが次の図です。

①地域連携推進センター、②地域経
済文化研究所、③異文化交流センター、
④教育・研究大学間連携、⑤福祉・ボ
ランティア研究センター、⑥スポーツ
振興アカデミーの6領域で構成されま
す。



地域貢献の6つのチャンネル

大学が行う地域貢献活動の中から今
回取材した、3つの取組みを紹介しま
す。

●地域貢献人材育成プログラム

少子高齢化、人口減少に伴う地域の
課題を担う人材ニーズに応えるため、
高校、大学、自治体の三者が連携して
実施するプログラムとして策定されま
した。

このプログラムを希望する生徒は、
自治体の長及び校長から推薦を受けて、
特別入学試験を受験して入学すること
により、自治体から授業料の支援を受
けて大学で学ぶことができます。

在学中は、「地域創生論」、「地域経済
論」等の推奨履修科目、地域に密着し
た課題解決型授業、県内の大学等が加
盟する「いわて高等教育コンソーシア
ム」の単位互換を活用した授業等を受
講し、卒業後に地元の自治体や商工会
議所等に就職して、地域で活躍する人
材となることを目指します。

●スポーツ振興アカデミー

当大学では学生の7割が運動部に所
属し、スポーツ活動を人間教育の一環
として捉え、スポーツ振興を図ってき
た結果、優秀な指導者・学生が集まり、
全国でも有数の運動部強豪伝統校と呼
ばれるようになりました。

また、施設面では、屋内300mト
ラックと多目的運動場が一体となった
国内最大級の屋内総合体育館であるス

ポーツセンターや、人工芝サッカー場
等の充実した環境があります。

大学では、これらのスポーツ資源(人
材、研究成果、施設等)を活用して、
学生、教職員、地域住民とともにスポ
ーツを通じた豊かな社会の創造を目指
しており、そのための組織として、平
成29年に「スポーツ振興アカデミー」
が設置されました。

同アカデミーは、競技力向上を図る
だけでなく、地域の自治体や企業と連
携し、健康づくり支援や、スポーツイ
ベントをサポートするボランティア活
動、スポーツ価値を創造する研究活動
などの様々な取組みを行っています。



富士大学スポーツセンター

●受託研究事業

地元企業からの受託研究として、「花
巻型CCRC事業」という研究が行わ
れました。

「CCRC」とは、「Continuing Care
Retirement Community」の略で、米
国で始められた、高齢者の快適な暮らし
を実現する地域開発のことです。

日本版CCRCは、東京一極集中を
解消し、人口を地方へ移転させる、地
方創生政策の一つに位置付けられてお
り、この取組みを花巻の地域で実施す
ることについて研究を行い、成果物の
報告書『「花巻型コンヴィヴィアル・ラ
イフ」の提案』を提出しました。

現在は研究を踏まえて、移住・定住
促進のためのプラットフォーム形成を
目指して関係機関と話し合いを行うな
ど、活動を継続しています。

【取材を終えて】

岡田学長の「地方創生のためには、
人の循環が大事であり、そのために大
学の果たすプラットフォームとしての
役割が重要である。」というお話が印象
的でした。

富士大学は、地域における高等教育
機会の提供だけでなく、地域の発展を
担う人材育成、地域住民へのスポーツ
資源を活用した様々な取組み、大都市
圏からの移住者を受け入れて地域を活
性化する研究を行うなど、「人の循環」
のために重要な役割を果たしており、
地方における高等教育機関の存在意義
を感じた取材となりました。

(取材) 私学経営情報センター